

7. 会員寄稿集

(1) だるまの活動に参加して

●「活動から感じられた・・・いろいろ」
池田邦昭さん(会員番号:002 横浜市緑区)
<その1: 談義はどうして実現されたか>

継続は力、200回近く
毎月談義の会が開催され
たのは、ひとえにだるま
のネットワークと思いま
す。そんな中でも第1に



荏本先生の様々な専門家
との繋がり、第2にFMナパサの山田美智
子さんやだるまの多様なネットワークのお
かげで続けられたと思います。

多士済々の会員の皆様からの様々な活動提
供に、時には皆様も意外な人達の談義の会
にびっくりされたことと思います。

荏本先生のネットワーク、佐藤孝治先生・
北原糸子先生(神奈川大学)や加藤孝明先
生(東京大学)・岩楯徹広先生(都立大学)
及び中林一樹先生(明治大学)、行政関係の
杉原氏・上原氏・荒巻氏の諸氏、ジャーナ
リストの中川氏・渡辺氏、土木学会の田中氏・
山本氏等々まだまだまだ上げたら限りがありま
せん。

<その2: 防災力向上の鍵は女性の力!>

だるまの永年の活動の中心に常に女性の
活躍があり、防災力向上の鍵は女性の力を
いかに活かすかにかかっていると思います。
横浜市男女共同センターが企画した「わた
しの防災力ノート」に多少なりとも協力で
きました。今後も引き続き女性の力を活か
す活動が求められると思います。

<その3: 故人が天国から応援>

上原さん(だるま顧問)の紹介で入会い
いただいた元神奈川県警本部長の故渡邊巧

さん(会員番号:080)、元横浜市消防局音
楽隊の指揮者であった故北原辰郎さん(会
員番号:017、横浜市緑区)には、それぞ
れ行政との橋渡しをしていただきました。

J-DAG が相模原で公式に認められた背
景には故加藤清さん(会員番号:092、神
奈川県相模原市)が行政との土台作りに貢
献されました。

●「だるまに入会して 今思うこと」

伊東幸保さん

(会員番号:005 横浜市神奈川区)

私は町会で約13年間、
地域の防災活動で頑張っ
てきました。しかし、初めは
防災に関する知識がなかつ
たので、荏本先生や池田さ
んを始めだるま会員の皆様
から幅広い知識などを体験させて頂き、町
会に反映するように頑張りました。



最近では、私は年を取り昔のような働き
をすることが出来なくなりました。しかし、
町会の自主防災部には、若い方々が残り、
新しいメンバーが加わったりして、防災活
動を続けようと努力しています。

だるまの活動も変わっていくと思いますが、
これからの活動を心より応援したいと思
います。

●「お世話になりました」 菊地利子さん

(会員番号:018 横浜市神奈川区)

荏本先生には、町会での
防災講演や、ゼミの生徒さ
んたちに手伝っていただ
き、まち歩きをやワークシ
ョップをし、みんなで町会
のMAPを作るためいろいろ助言をいただ
きました。



地域の防災力向上に役立ち、とてもお世
話になり感謝しています。

●「これからも期待に膨らませています」

添田睦子さん

(会員番号：028 神奈川県平塚市)

振り返れば先生には多くのお導きを頂いたとしみじみ思います。

何度も平塚までお運び頂き

「市との協働事業」のご指導をいただきましたが、さりげない先生の言葉にどれほどヒントを頂いたかしれません。



これからも先生の知識とご経験で、私たちにたくさんの気づきを与え下さることを楽しみにしています。

●「先生の魅力にひかれて」高松清美さん
(会員番号：030 横浜市南区)

だるまに入会したのは何時だったか忘れてしまいましたが長い間所属していると思います。

この会に居ると情報や防災に関わる勉強が出来る、大変役に立ちました。その理由は荏本先生の存在が大きく、先生の人柄が穏やかで温かいから続ける事が出来たのです。



2021年度の養成講座の担当となりましたが、新型コロナウイルス感染症のためにオンライン講座となり、今までの会場講座とは違い初めての挑戦でした。

なれない開催でしたが、先生のサポートと鷺山さんの協力により無事に終了する事ができ、改めて先生の存在の大きさを感じました。

●「心を残して」 故田中伸二さん

(会員番号：032 神奈川県大井町) 令夫人

田中は生前、先生のお人柄に心酔しておりました。

退職の際は、何かお役に立てないかと常日頃から申しておりましたが、思うように動けない病身の身で歯痒い思いをしていた

様でした。とても残念です。

夫・田中伸二、享年八十五才 2020年12月に旅立ちました。

●「百聞は一見に如かず」 中島光明さん
(会員番号：036 横浜市緑区)

振り返れば、荏本先生に導いて頂いた15年間の防災市民活動でした。



友人の池田さんに引き出され、「防災塾・だるま」創設時発起人4名の一員としてスタートしました。

この間、防災に関するソフト面の重要性が認識されるような社会情勢の大きな変化がありました。

・先生の人脈を活用し、トップクラスの防災専門家からレベルの高い防災知識を吸収させていただくことができたこと。

・激甚災害の被災地を訪問し、現地で直視できる被災実態から、多くの学びを得ることができたこと。(阪神淡路大震災、東日本大震災、広島土砂災害、真備町大水害、福島原発事故)

・活動を通し、熱い思いの仲間といろいろな意見交換ができたこと。

また、情報が氾濫する現代において「その質を科学的に判断し、理性的に行動する」という危機管理の考え方を学びました。

そして市民活動においても「組織運営(Management)」が不可欠であることを再認識しました。

東日本大震災より1か月前にニュージーランド南島、クライストチャーチ周辺で、死者185名(日本人留学生28名を含め)の大震災が発生しました。2011年12月に被災中心地を視察し、先生の紹介でカンタベリー大学地震学者にインタビューする機会を得ました。(だるまHPに掲載)

●「養成講座受講からスタートしました」

森 清一さん

(会員番号：041 神奈川県秦野市)

私が「防災塾・だるま」に入会したのは、2006年の第1回目の養成講座の終了後です。この時の会員は創設期の方をいれて30名でした。それから15年活動させていただきました。

我々会員が、それぞれ県内・地元の防災団体・自治会で活動している方が大半でした。そこで養成講座・談義の会を通じて会員の講習会での講師としてのスキルを身に着けることとスキルアップを図ることを目的に、会員の防災への取り組み方・考え方・ゲーム等を、養成講座を利用することにより普及することになりました。

長い間われわれ・我儘者の面倒見てくださりありがとうございました。

●「だるまの活動を振り返って」

森下 剛さん

(会員番号：042 横浜市緑区)



2006年横浜市緑区住民数人が中心となって防災情報の共有化と人的ネットワークの構築を目的として会を立ち上げました。

毎月1回の定例会の開催、談義の会・養成講座・出前講座を開催しました。そして各地の防災講演会、セミナー、ワークショップ、自治会・町内会など一般市民の防災関係者や大学・行政機関・企業・研究者などの交流の場として活動してまいりました。

また各種イベントへの参加と地域防災活動への協力、震災被害者との交流(神戸、中越、東北)にも力を入れました。

大井町で実施した研修会には、多数の住民が参加されて実践的な地域の課題を討議・検討され、研修終了後は新しい組織が

立ち上がり大きな成果を上げておられます。

だるまは情報の共有化と人的ネットワークの構築を目的としていろいろな活動をしてまいりましたが、これからも多くの住民が防災・減災に向かって協力しあいながら活動していきたいと思います。

●「先生との焼き鳥屋談義」白田克雄さん

(会員番号：048 横浜市南区)

だるま会員の中では、個人的には先生との交流は少なかつたと思います。



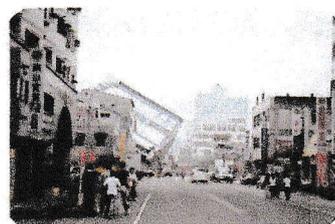
2000年代はじめのある時、打ち合わせの帰りに、焼き鳥屋での「思い出談義」をいたしました。その折「NPO法人でもない団体は、ゆるく組織を動かしていくことが、存続していくためには必要だ。」と言われたことが今でも印象に残っています。

活動を通して行ってきたことは、関東地方の「建築士会の防災ワークショップ」を10回、その他団体からの依頼を受け数回の講演・ワークショップを行いました。活動報告は「だるまホームページ」に種々掲載させていただきました。

また、荏本先生に触発され、防災関係のお役立ち資料として『防災クイズ集』・『防災用語集』・『地域防災拠点運営マニュアル』等々も作成しました。(だるまHP参照)

そして「刺激を受け自分にどう生かすかは、個々の本人の問題ですね。」

「皆さんのお役に立つか立たないかは相手が決めることですね。」と思っています。



台湾地震

●だるまは「市民と共に七転び八起き」

田中喜世美さん

(会員番号：050 横浜市神奈川区)

「防災塾・だるま」は、「人的ネットワークによる防災まちづくりの提案」“お互いの活動を通じて、防災力の向上や情報の共有化を図り、それぞれ



の地域に活かせるように、緩やかなつながりの中で、お互いに負担がなく自然に防災意識を高め活動をする“のが目的。

被災地をめぐるみんなで話し合ったり、検討をしたり、学校防災にも参加・協力したり、それぞれの地域貢献になるようにという、先生の熱い思いの結果ではないかと思っています。

今回、談義の会のチラシやカレンダー・年表などの整理をしながら、まさに「市民と共に七転び八起き」そのものと思いました。

荏本先生の国内外の被災地視察や、数多い講演の膨大な資料は簡単に纏められるものではありません。長い時間をかけた、素晴らしい研究と活動の奥深さを感じさせるものでした。

編集に携わり荏本先生への感謝の気持ちでいっぱいです。

●「ボランティアの原則を満たした活動」

片山 晋さん

(会員番号：058 横浜市磯子区)



自分の趣味信条に合うボランティア団体での活動は、役所や企業のように上下関係やノルマも殆どなく、団体の理念に沿って同じ信条の仲間と一緒にあって、楽しく考え議論し、楽しく実践行動しながら社会貢献していくものだと思います。

産官学民の錚々たる人達が一緒になって対等に議論し、時に飲んで和気あいあいとできる「防災塾・だるま」のような存在は、他には聞いたことがありません。

ボランティアの4原則として

- ① 活動の目的が明確なこと
- ② 活動が楽しいこと
- ③ 達成感があること
- ④ 活動を社会から認められていること

がありますが、「防災塾・だるま」はそのすべてを満たしており、加えて有志による調査旅行で寝食を共にし、とことん語り合えることも楽しみの一つです。

こうした活動は、荏本先生のお人柄によって成し得られたことだと思います。

●「全国でもめったにない貴重な活動」

山田美智子さん

(会員番号：055 神奈川県平塚市)

「防災塾・だるま」の15年にわたる活動を振り返ってみると市民活動であるにもかかわらず、荏本先生が塾長をつとめて下さったおかげで神奈川



大学を拠点に、まるで若い学生のような気分で多彩な防災活動が出来たことを心から感謝したいと思います。

大学の先生との期限が限られた単なるプロジェクトではない「防災塾・だるま」のような存在は、全国でもめったにない貴重な活動だと誇りに思います。

自分の地域に戻ってだるまでの活動を活かしていくこともできました。「防災塾・だるま」をいかに発展させていけるか荏本塾長と皆さんで議論も積み重ねてきましたが、これからも名誉塾長として会のために鷲山新塾長とともに尽力して下さることので大変心強く思い、期待しています。

今はまだ COVID-19 禍ですが、また皆

で被災地を訪れ自分たちの目で見て、なぜ被害が発生し対策はどうすれば良いか、考えていきたいと願っています。また市民に役立つ具体的な取り組みをどう発信していけるか今回の記念誌を皆さんに読んでいただき「宝もの」として活用していけるのではないかと考えています。

●「池田・中島さんと荏本先生の関係プレー」 田中 晃さん

(会員番号：063 横浜市緑区)

池田さんの 談義の会講師や情報を探すパワーはどこから生まれてきたのだろうか？

もしかすると企業時代生保でのリストウがその源泉なのかもしれない。



毎月の講師依頼は大変な作業だったと思う。抜けも出ず、お礼を自作の陶磁器で済ます度胸。

一方運営の仕事は中島さん、付近に住んでいて池田さんの話を聞いてあげたのだろう。衝突もなくよく続いたものだ。新しいだるまも新しい組み合わせで変わっていく事だろう。

●「だるまで得た知識と人脈」

佐藤忠文さん

(会員番号：064 横浜市金沢区)

私が入会したのは2009年5月(退職した1年後)でした、2011年には理事として運営に参加、翌2012年からのホームページ立ち上げ・運営にも参加しております。2020年に都合で退会しましたが在籍中は荏本先生を始め会員の皆様には大変お世話になりました。

だるまで得た知識・人脈は、地元の防災

活動に活用させていただいております。

●「知識を活かす知恵」 樋口 誠さん
(会員番号：091 横浜市緑区)

だるまには知識を活かして行動に移す「知恵」があり、携わってみると、段々その魅力や面白さに惹かれていくのを感じます。



「自分が楽しめて人の役に立つ活動」を目指し、自分の性に合っているなと思います。

これからも好奇心を原動力にして、楽しみながら色々な課題に取り組んで行きたいと思っています。

●「一進一退の継続」 吉開真理子さん
(会員番号：116 横浜市緑区)

だるまの例会や談義の会には、別件と重なりあまり参加できていませんけど、参加する事により、防災に関する情報や知識を得ることができ、魅力ある会だと思っています。



この度、編集委員の一員として携わらせて頂き、15年の活動を垣間見る事ができて、沢山の褒美を頂きました。

●「J-DAG 相模原版」 小嶋 洋さん
(会員番号：129 神奈川県相模原市)

2008年に行われた街中での防災訓練で、訓練参加者にご迷惑をお掛けした時(指導者側の知見不足が原因)に、「J-DAG」の存在を思い出し、2009年4月に相模原市内で初の「J-DAG」を体験させていただきました(だるまの全面協力)。



その後、参加者から「街中防災訓練を簡単にイメージ出来れば」という意見を頂き、指示書の書式を変更して、会場に災害現場を掲示するなどの独自のアレンジを加えました。

さらに「J-DAG」の手法を避難所運営訓練に応用し、具体的には訓練項目の立上げ順番に合わせて指示書を作ることにより、7～8人程度の少人数でも効率良く、従来の約半分の時間で、必要最小限の機能を持った避難所が立ち上がる手法も誕生しています。

●「先生は地域の宝です」松村みち子さん
(会員番号：167 東京都大田区)

初めて荏本先生にお目にかかったのは、2015年11月大井町で開催された「ボランティア・フェスティバル」の会場でした。

「大井町防災まちづくりの会」のメンバーが、荏本先生に出会える機会を作ってくださったのです。

土木工学を専攻し安全安心なまちづくりをテーマに在野で研究を続けてきた私にとって、先生が作成された「微地形区分図」や「地盤増幅率図」は衝撃でした。

地道なデータ収集に基づいたこのような図こそが、揺れやすさマップの公表へとつながり、科学的に地震対策を進める上で本当に大切だからです。

先生の素晴らしいところは、こうした地道な研究に加えて「談義の会」に代表される防災まちづくり活動を拠点として続けてこられたことです。荏本先生は、間違いなく「地域の宝」です。

このような先生の姿勢と人柄にも引かれて、私も「防災塾・だるま」の一員に加えていただきました。



これからも先生を人生のお手本として、私も微力ながら研究やまちづくり活動に取り組んでいきたいと思っています。

(2) 被災地から得たこと

●「東日本大震災の現場を見て思う」

伊東幸保さん

(会員番号：005 横浜市神奈川区)

会に入会して15年、一番印象に残ったのは、2011年3月に起こった東日本大震災でした。津波にのまれ、多くの方が家や命を失ったことでした。

その時は、津波を避けるために係留してあった多くの船が、大津波のために、防波堤の外壁を乗り越えて一般道路に落下し、町中の住宅街や道路になだれ込み、多くの車等があちこちにぶつかりながら、ものすごい勢いで流されていました。

現地で被災された浦部さんも横浜に避難されていて、被災時の大変だったお話を聞きました。山田町出身の佐々木さんも実家が被災し、支援に大変苦労されたようです。

その佐々木さんの案内で、被災から1年後の2012年3月に被災地ツアーが実現しました。

現地は、被害があまりにも大きく見渡す限りの広い地域の無残さに驚愕しました。

津波に襲われたビルは瓦礫と化し、一般住宅が建っていたところは、土台だけ残してすべて流されて何も無い状態でした。

あれからもう10年。家が亡くなった方は、新たに新築するなど国の援助を受けながら取り組むことはいくらでもあると思います。遠くの身内を頼りに移り住んだ方もいて、町としての人口が大幅に減ってしまっただけでなく、しかし復興のための支援は、心より応援したいと思っています。



大川小学校

●「だるまの果たした役割など」

植山利昭さん

(会員番号：007 川崎市川崎区)

現在の政治とマスコミの劣化に起因するが、新型コロナウイルスの問題についても、世界的に見て日本の対応の稚拙さが際立っています。



ましてや「防災」に関しても、世界的に温暖化が進み、日本に至っては、毎年のように、台風や豪雨水害に遭遇し、日本中の国土が痛み、被害が拡大しているにもかかわらず、「国土強靱化」と言いながら対策は後手後手で不十分の極みです。

その中で、大学が地域に開かれ、荏本先生を軸にした「防災塾・だるま」は、貴重な日本の進むべき「みち」を示してきました。

実際に現場に行って、自分の目で観察し・研究する、という実学の精神を一般にも広げ、20数年にもわたり、引き継いできた成果と言えると思います。

特筆すべきは、阪神・淡路大震災以降、毎年1月慰霊のため、神戸市を訪問する過程で、緊いだ被災地域への調査や研究団体の見学と交流、市役所の担当者との交流などを毎年繰り返したことです。

あるいは、神戸から講師をお招きしての交流もあり、毎年のごとく新しい企画を立てて、繰り返し実施されてきたことは大変有意義なことでした。

また他にも、ヨーロッパ・中国の四川地震や東北の3.11以降も、荏本先生や佐藤先生は何度も現地へ行かれ、その報告会も開催されるなど、貴重な記録と教訓が残されています。

今後とも、大学と地域をつないで、しかも科学的な見地を大切にして、後継者を育成することを「防災塾・だるま」の使命として、頑張っていたいただければと願います。

●「被災地ツアーの思い出」小原 茂さん

(会員番号：016 横浜市磯子区)

だるまのスタートから参加させていただき貴重な経験をいたしました、なかでも2度の神戸と三陸海岸の旅は、忘れられない思い出です。

今は2年前病に倒れ、活動に参加できませんが、歩けるようになって復帰を目指して頑張っています。

●「東日本大震災被災地ツアーの思い出」

長沼重雄さん

(会員番号：056 横浜市栄区)

だるまの皆さんとは12年前、ギャザリングに立ち寄ったのが最初です。フレンドリーで即入会しました。思い出としては、2012年3月東日本大震災1周年企画「被災地をめぐる」に参加させて頂き荏本先生のお人柄が好印象でした。

●東日本大震災直後の被災地調査の思い出

佐々木義雄さん

(会員番号：096 横浜市緑区)

2011年3月東日本大震災が発生、テレビで見る故郷岩手県山田町は表現できないほどの悲惨な情景でした。



2週間程で道路が補修され啓開となり、故郷への道が高速バスで可能になりましたので、3月29日から2週間(1回目)、2回目は4月24日から8日間を被災した故郷に帰郷しました。

この言語に絶する故郷の実情を「専門家の目に留めていただきたい」との思いから、横浜市緑区の池田さんに相談し、2011年4月神奈川大学チームの現地調査が実現しました。

4月8日荏本先生、佐藤先生、松田先生、

大学院生 3 名と現地で合流し、津波で床上浸水した実家にて調査の打合せを行い、山田町の被災状況・防潮堤の破壊状況から調査が始まりました。

山田町視察の後 2 班に分かれ、荏本先生班は 4 月 9 日から「宮古市～田老～久慈市方面」、佐藤先生班は「山田町以南の大槌町～鶴住居～釜石視察」が続きました。

横浜に帰宅後の 5 月、荏本先生と私が講師となり講演会「がんばれ日本！東日本大震災の現地レポート」を緑区役所で開催しました。

その講演会に、大震災被災者の浦辺利広さん夫婦（山田町から横浜へ避難）が参加されており、そして浦辺さんの「生々しい津波被災時の体験談」が横浜市緑区で実現しました。

この体験談は皆さんの心に深く訴えるものがあり、その後多くの要望から、浦辺さんは各地で 100 回を超える講演を続けられました。

これからも、自身の生涯学習の学びの場・伝える場として「だるま」で活動を続け、10 年後の故郷山田町のまちづくり状況も伝えて行きたいと思います。

●「山田町の浦島太郎」 浦辺利広さん
（会員番号：100 岩手県山田町）

東日本大震災、3・11、2 時 46 分以外のことは、覚えていない訳ではないけれど、いろんな事があったしありすぎたなあ・・・



震災から約 1 か月後に仕事を求めて家内と 2 人で横浜に避難しました。私達は生まれて初めてハローワークに通い、希望の仕事を探す間、役所とか図書館などで情報を求めていました。震災で一番欲しいと思った

のは何でもない情報です。図書館に毎日通い、大手新聞社の片隅に、緑区役所で開催される講座の案内が出ていました。菊名に住んでいた私達の所から近いので家内と 2 人で出かけました。スペインの視察から帰ったばかりの荏本先生のエビス顔のお姿は今でも忘れません。

世界の災害と色々なお話をされたが正直心には入ってこなかった。「先生！世界じゃないから、今私たちはどうやって生きていったらいいのか、立ち上がるにはどうしたらいいの！」を教えてほしかった。当時それが私たちのすべてだったので。

そして、講演会の後半に「故郷の被災現場を見てきた主催者のひとり」からの報告があり、それを聞いて「愚痴ったこと」を今も覚えています。

私の話をどのように聞いていただけたかはわかりませんが、その後私は「防災塾・だるま」に入会し、そして私自身が請われて講演を 5 年間 継続しました。

荏本先生とだるま会員の皆さんには数多く教えられ、世界の災害、地球の変化、各地の状況などを学びました。

あの時から 10 年、そして田舎に戻って丸 5 年、お蔭様どうにか生活も落ち着いてきました。神奈川の皆様にも活用いただける、小さいながら避難小屋も造りました。

先生には我が家に何度も足を運んで頂きました、有難いことです。この新型コロナウイルス感染症禍で 2 年程お会いしておりませんが、先生のエビス顔とまたお話をさせていただきたい。

最後に「自助、自助、自助」と「感謝、感謝、感謝」です。

●「私と防災塾・だるま」石井榮一さん
（会員番号：106 神奈川県大井町）

一番印象に残っているのは、東日本大震災、石巻・女川・雄勝その惨状が目に焼き

付いています。その中においても、大川小学校の千葉校長の言葉は自分の人生にも影響を与えた、重い話でした。このような貴重な経験させて頂いた先生やだるまの企画運営は何物にも替えられない体験でした。

東日本大震災以後各地において、大きな災害が起きているにもかかわらず、自分の財産・生命を守ることに對し、ほとんどの方が全くの無関心としか言いようがない状況です。もしも今この瞬間に断水・停電・大地震あっても準備等、心がけがあれば慌てる必要もないし、次の一手(生命・財産)を打てるのにと残念でなりません。

自分でも、何を求めようとしているかわからないが、毎年石巻～山田町を5回ほど訪問し、その地域の方の話を聞けば聞くほど何故という疑問が残ります。諺には「喉もと過ぎれば熱さ忘れる」「災害は忘れたころにやってくる」があります。

東北もうでも自分の気持ちの整理がつかまで続けて行きたいと思っています。

一寸先は闇、この言葉を胸に秘め人生楽しく明るく前向きに進んでいきたいものです。

●「1.17 神戸の集い参加から 20 年」 小林秀樹さん

(会員番号：127 神奈川県開成町)

TV で毎年阪神淡路大震災を祈ってきましたが物足りず、現地での「19年目の1.17の集い」に初参加し、鎮魂をささげ減災・防災への気持ちを確かめてきました。

その朝大イベント会場は、空からビルから周囲からの報道の列、犠牲者への鎮魂の祈り、災害予防への誓いなど、薄明りのざわめきの中で整然と進行していました。

午後は市内の遺構を巡りましたが、広いエリアだが力強い復興の成果を感じました。市民公園、運動広場、住居地区、共用広場、避難所、住所表示などここから生まれた施設や新しいロゴも目立つ、一つ一つが

犠牲から生まれた復興の証しでした。

鉄道、水道、電気などインフラの災害遺構を目の当たりにし、港に来ると断層が口を開いたままのメリケン波止場の一角が残されていました。断層による大地の自然破壊力に圧倒されましたが、ここでも荏本先生は現地現物から学ぶ防災力を印象深く述べられていたことを思い出します。

(3)地域での活動

●「かながわ・よこはま防災フェア」

森 清一さん

(会員番号：041 神奈川県秦野市)

2009 年当時の横浜市危機監理監であった上原さん(だるま顧問)にお願いしました。



「阪神淡路大震災」を忘れないために「かながわ災害ボランティア」が主催をして毎年 1 月に開催している「防災ギャザリング」に、消防署と協働して防災訓練を兼ねた催しのことです。

上原さんは、当時の磯子消防署長の荒巻さんを快くご紹介下さり、2010 年 1 月に磯子消防署で初めての防災実技訓練を実施できました。翌年には荒巻さんが神奈川消防署長になられ、その縁で、5月に横浜市民防災センターで毎年開催を続けています。



●「お幸せを願う」 山口章さん

(会員番号：044 横浜市緑区)

2001 年に最後の拠りどころとして横浜市緑区白山に引っ越してきて、自治会長を仰せつかり、2014 年に連合自治会長・



地域防災拠点会長を引き受けました。

全く大変でしたが、同じ自治会の池田さん(002)に「だるま」を紹介いただき入会しました。そして荏本先生や会員の皆さんにお目にかかり、当地区の「防災拠点」の防災力を高めることが出来ました。

●「だるまに導かれた地域活動」

田中喜世美さん

(会員番号：050 横浜市神奈川区)

2008年3月に名古屋から横浜に来て、区役所で紹介されたのが「防災塾・だるま」でした。

荏本先生や北原糸子先生の講演を聞き感動し、4月から「談義の会」に通うようになりました。10月からの養成講座を受講し、だるまに入会しました。

その養成講座に参加されていた地元の先輩に誘われ、地元自治会や防災拠点運営委員会にも参加するようになりました。名古屋では、民生委員や医療関係等の仕事と災害ボランティアの活動をしていました。

毎月、神奈川区の商工会議所が主催していた「かながわ街歩き」に参加し、地域や歴史を学びながら、いろいろな人たちと知り合いの輪が広がりました。

あっという間の13年余りでした。

「防災塾・だるま」では主に「談義の会」のチラシやカレンダーの作成等を担当してきました。

●「身を守るための情報共有」樋口誠さん

(会員番号：091 横浜市緑区)

談義の会や養成講座で得た知見を、地元(横浜市緑区)で生かすべく、毎年「防災・減災講座」を開催中。市民参加による「身を守るための情報共有」を目指し、奮闘中です。



●「大井町での地域指導」山田富士男さん
(会員番号：099 神奈川県大井町)



入会以来、多岐にわたりご指導いただきました、更には大井町町民としても、度々の来町と適確な御指導をありがたく思い出します。

大井町防災まちづくりの会が誕生の経過

・2008年2月：荏本先生・神戸市松山順三さん講師の防災講演会の開催

・2009年3月：上記講演会参加者をメンバーとして、「大井町防災まちづくりの会」が誕生10周年記念までの道のり

・2009年5月：荏本先生とだるま会員に参加頂きバーベキュー大会を行い親睦

・2010～2019年：大井町社協主催の「ふれあい広場」と「大井町防災まちづくりの会」の総会を4月に実施、先生とだるま会員の参加で指導と懇親を深めました。

・2011年～2019年：「大井町防災まちづくりの会」10周年まで度々の講演

・2015年2月～2018年2月：大井町立湘光中学校の3年生を対象に、当会と町防災安全室、社協、大井町建築組合の協力体制で防災授業を実施

・2011年～2019年：「大井町防災まちづくりの会」10周年まで度々先生の講演会を実施

退任後も継続してご指導お願いします。

●「木造建物の耐震性調査に協力」

小林秀樹さん

(会員番号：127 神奈川県開成町)

足柄平野の在来木造住宅の耐震性研究に協力させて頂きました。

研究は、足柄平野では2011年度から13年度まで続き、南足柄市・大井町・松田町・開成町で合計50棟について調査分析

をされました。開成町内は7家屋の調査協力を半年掛かりで、荏本先生と学生たちには常時辛抱強く対応してもらいました。

結果は、調査報告「足柄平野の木造建物の耐震性推測について」と題して2014年3月開成町民センターで荏本先生の報告、また同日の別集会「第六回 小田原・足柄を主題にした学生の卒業論文に学ぶ会」で報告されましたが、報告会への関心の低さには課題を感じました。

●「荏本先生の地層構造のお話」

小嶋 洋さん

(会員番号：129 神奈川県相模原市)

だるまの行事は仕事の都合でほぼ参加出来ていませんが、「横浜市緑区白山見学会 & 勉強会」での荏本先生の地層構造のお話など、普段の防災士の活動ではとても得る事が出来ない貴重な知見の取得の場になっております。

●「地元で自主防災組織の実践」

稲垣博正さん

(会員番号：132 横浜市旭区)

2014年秋の「養成講座」に初めて参加し、防災の大切さに目覚め、12月の「だるま忘年会」に出席し、その場で会員登録したのが「だるま」と荏本先生との関わりの始まりでした。



だるまで学んだ「知識と事例」を自分の自治会に持ち帰り、自治会で防災勉強会を主催し仲間を募り、自主防災組織をゼロから立ち上げ、年1回の全戸防災アンケート、互近助安否確認の仕組み、毎年の防災訓練と「だるまの教え」を地域で実践してきました。

この成果を養成講座で2回発表し、その

縁で自治会の防災訓練がTV取材され、区のHPにも掲載されるまでになった事も「だるま仲間の知恵」と「荏本先生の教え」の賜物です。

「だるま」が地域の自主防防災活動の「実践活動」の支えとして発展して行くことを祈念し、今後とも先生の変わらぬ「だるま愛」で我々をご指導いただきます様お願いします。

●「パワフルな皆様とのふれあい!？」

早川雅子さん

(会員番号：138 横浜市都筑区)

荏本先生のお人柄にはいつも和ませられ見守っていただける存在です。今後のご活躍を楽しみにしています。



この記念誌には、「だるま」に携われた15年間のパワフルな皆様方が紡がれたことが結集した事と思います。今後さらなる皆様のご活躍の書としていただければ幸いです。だるまの皆様乾杯!

●「自助に徹したい」 三浦孝悦さん

(会員番号：145 横浜市緑区)

2013年より活動が盛んになっただるまには池田さんの紹介で入会し、災害防止について幅広く、深く勉強させてもらいました今は障害者手帳を持つ身となりましたが、万が一災害が発生しても、自助で生き延びる為に「怪我無しはどうすればできるのか」をもっともっと勉強しなければならないと思っています。



場所や国が違えば 災害の様相は大きく変わります。